

蕎麦ランチと買い物の彦間浅間遊歩道

【山行日】2020年2月23(日) 晴れ

【集合】岩舟支所P AM 8:00

【費用】マイカー2台 : 500円

【メンバー】CL:大西 SL福島 石田 嶋田 島田 鈴木ユ 関 藤原 松館 渡辺

【コースタイム】岩舟支所 P7:55 = 道の駅「どまんなかたぬま」8:10/8:15 = 憩い館P8:30/8:45
→ 阿弥陀堂 → 子育て観音 9:10/9:15 → 不動展望台 9:20/9:30 → 浅間山山頂見晴台 9:40
→ 345mP → 名草山10:05/10:10 → 大正・昭和・明治トンネル → ベンチ10:30/10:40 →
憩い館P 10:55/11:05 直売所11:05/11:15 憩い館11:15/11:45 = 遠藤食品11:50/12:05 =
あわしま堂12:20/12:40 = 岩舟支所P13:05

どまんなかたぬま

皆さんの集合が早く、7:55には出発できた。

道の駅のトイレは24時間使用可能。どまんなかたぬまもトイレ目的の車が数台駐車していた。野菜好きのSさんが野菜を持ち歩く人を目ざとく見つけた。道の駅の営業は9時からだが農産物直売所「朝採り館」は8時から開いている。野菜目的の人の車もあるのだな、と思った。山行では朝の買い物はない。皆さん、さっさとトイレを済ませ車に乗り込んだ。

阿弥陀堂～子育て観音

憩い館の建物はなかなか立派である。白壁と瓦屋根で風格がある。左に蕎麦打ち所、その左に農産物直売所がある。

登山口の坂道にはスイセンの芽が出ていた。踏まないように注意して登る。石仏・庚申塔群が迎えてくれる。県道拡幅工事の際、付近のものを整理して一堂に集めたそう。直ぐに阿弥陀堂に出る。右には安永時代という井戸がある。阿弥陀堂と井戸の間を進み、鐘つき堂の左を行く。阿弥陀堂で手を合わせる方、鐘つき堂を敬けんな表情で見上げる方、先人と地域の方への感謝の気持ちが伺えた。

庚申塔群を過ぎると平坦な道になる。この辺りは無量寺というお寺の遺跡だそう。左に墓石が幾つかあった。道なりに進むと、このルート上の難所の1つ「平成坂」だ。急で滑りやすい。金属の手すりが付けられている。長さは10～15m位。手すりをしっかり持って足場を確保していけば楽しく登れる。登り切って1～2分で子育て観音になる。ここで衣服調整。と思ったらW辺さんが大きなタッパーに入った苺を出してくれた。大粒の苺を3個も頂いた。みずみずしくて甘い。

不動展望台～浅間山山頂見晴台



子育て観音から不動展望台の休憩所屋根は見えている。5分で着いた。東向き、針葉樹の陰で日は当たらない。下彦間地区の様子が一望できる。ジオラマのようだ。細い道をミニカーが走っているように見えた。右遠くには三床山が見える。

不動尊も安永年間とのこと。歴史を感じる。

この辺り佐野市下彦間地区は安永10年(1663年)彦根藩の飛地(とびち)となった。その際旧村名「飛駒村」が彦根の「彦」をあて「彦間村」になった。その後、上・下に分かれ、明治22年(1889年)4月町村制で、

「上彦間村」は「飛駒村」になり、現在は佐野市飛駒町である。

「下彦間村」は閑馬村等と合併し新合村になり、現在は佐野市下彦間町である。彦根藩領は幕末まで続いた。井伊直弼も一度視察に来たと言われている。



休憩所の屋根の下で温かいコーヒー、手作りチーズケーキ、珍しいチョコレートを頂いた。

岩混じりの急登を10分登ると、広々とした浅間山(せんげんやま)山頂見晴台に着く。東から南の見晴らしがいい。空気が澄んでいれば筑波山や富士山が望める。

名草山～大正・昭和・明治トンネル

見晴台から少し西へ行った所が山頂になる345m地点。南へ緩く下って行く。雑木とヒノキの間を気持ち

よく進む。「野鳥の尾根」の看板を過ぎてヒノキ林の南端に行くと山神様が祀ってある。山神様から右折し下ると江保地坂になる。江保地坂を少し登り返すと足利百名山名草山(258m)になる。名草山には大きな松ぼっくりがたくさんある。松の木の種類が違うのかと思う。葉の長さも長い。

大きな松ぼっくりや太い松の幹を鑑賞しながら休憩にしていると、トンネル方面から登山者がお1人登って来た。休日だから人に会うのだなと思った。下りは急なところを松の葉の上を行くので滑りやすい。手すりやロープがあるので安全に下ることができた。



また尾根を進むと車の音が聞こえてくる。トンネルに近くなった証拠だ。右に舗装道路が見え、急降下すると昭和トンネルの上に出る。左に曲がり落ち葉の吹き溜まりの谷間を進む。

落ち葉がなくなると左に須花坂湿原がある。丁度この時期「ザゼンソウ」が見られたかもしれないが、下山口の落石が気になっていたので通り過ぎてしまった。次回もこの時期に設定すれば見ることができる。

下山口の階段の上に大きな倒木が横たわっていた。14日(金)に時間が取れたので下見をした。その時はなかった。倒木の下を注意して下る。階段を下りると下見の時もあった大きな落石が舗装道路の上にあった。直径2m位はある。



右に大正トンネルが見える。Oリーダーが「アルミ棒のフェンスが立派になった。」と言っていた。後で考えたら、山人クラブで初めて訪れた2018年12月より確かに立派になっていた。

舗装道路を歩き県道を渡る。右に現在使用されている昭和トンネルが見える。大正トンネルより幅が広く高さも高い。

3分歩くと手掘りの明治トンネルになる。明治22年(1889年)1月完成。当時の上彦間村戸長田島茂平翁が私財を投げ打って掘った。「戸長」とは明治の初め

の言い方で「村長」と同じ意味だ。須花峠を難儀して超える人のために8年掛かって掘り上げたと言う。このトンネルのお陰で彦間と足利の行き来が随分楽になったとのこと。先人のご苦労に感謝。

ベンチで休憩しりんごを食べた。下見の時気になったごみも拾った。アルミ缶やペットボトルが多くてかさばった。持参した袋がすぐいっぱいになってしまった。

本クラブのSリーダーが時折見るといふHP「安蘇の山懐から」の山行文の最後に「収穫 ○g ○片」とある。それに習うと「収穫 500g 60片」になった。

直売所と蕎麦ランチ

県道の右を歩き出し、すぐ左に渡る。左側には歩道がある。15分で憩い館Pに着いた。

登山靴を履き替えている途中、駐車場にどンドン車が入ってくる。憩い館開店の11時になったから



らだと思う。トイレに行く人、直売所に向かう人、それぞれになる。

直売所にはまだ品物があつた。春キャベツ、カキナ、コマツナ、セリ、フキノトウ…。季節の野菜と山菜。皆さんそれぞれに買い物をする。朝なら種類も数もあつたと思う。

憩い館のメニューは「もり、ざる、五合、1升、天ぷら」。皆さん、もりとてんぷらを頼んだ。天ぷらは野菜のかき揚げ。今回は季節物の「フキノトウ」と「マイタケ」もあつた。皆さんマイタケか、かき揚げ。フキノトウに興味があつたがマイタケも食べたかったの

でマイタケにした。

ホカホカの天ぷらがくると天つゆで味わう。揚げ立ては美味しい。蕎麦の前に食べ終わってしまう人もいた。野菜天が大き過ぎて食べ切れないと思う人は食べられる人に上げていた。山人クラブでは食べ物のシェアが上手に行われている。

Sリーダーが「蕎麦は『三立て』が美味しい。」と言う。粉の引き立て、麺の打ち立て、茹で立てのことだそう。茹で立ての蕎麦が来た。露が切れないうちに黙々と頂く。本当に美味しい。

お茶も蕎麦湯もセルフなので十分頂き、皆さん大満足だった。

遠藤食品とあわしま堂

遠藤食品は車で3分。生姜を主にした漬物を多種類生産している。直売所は冷蔵庫から好きなトッパーを取り出し試食できる。10種類位出してみた。サラダ生姜、味噌漬け生姜、新ガリ、おかず生姜、おにぎり生姜…と多彩にある。ダクワース、茎わかめ、カリカリ梅も美味しかった。お茶も頂けるが、次のお店にもあるので漬物を味わい買い物をした。

あわしま堂は車で15分。新型コロナウイルス感染防止のため、現在、試食は中止になっている。工場直売なので商品の種類はやはり豊富。大福類、どら焼き類、ブッセ類、カステラ、固焼き菓子、和菓子類。お買い徳の商品もたくさん出ている。

自分はチーズブッセ、塩バターどら焼きが美味しいと思うので購入した。いそべ餅もあつた。皆さんもそれぞれ購入していた。

購入後は奥の休憩コーナーへ向かう。お茶もあるがコーヒーを味わう。皆さん、綺麗なトイレをお借りしていた。

帰りのコースでは道の駅どまんなかたぬまを通る。いつもなら寄るが、本日は憩い館の直売所で野菜は購入できたし、新型コロナウイルス感染防止のため人混みは避けた方がいいので寄らない計画であった。

12:40にあわしま堂を出ると1時過ぎに岩舟支所に着いた。

(福島 記)